

鞍手地区点検評価委員会の意見書

令和5年10月25日

宮若市教育委員会 殿

点検評価委員会

委員 福岡教育大学

瀧島啓司

委員 宮若市

下田和子

委員 鞍手町

石松和彦

委員 小竹町

長谷川富恵

令和4年度の貴教育委員会の運営状況について、点検及び評価をしましたので、別紙
のとおり意見を報告いたします。

(別紙)

	点検及び評価に関する委員会の意見
教育委員会の開催状況	<p>○委員活動については、コロナ禍の中で工夫しながら、学校行事や年2回の学校経営説明等を通じ、校長等より各学校の方針・課題について確認している。また、委員会については、検討・審議が必要な案件について適切に会議が開かれ、良好に実施運営されている。</p>
教育施策の主要施策の状況	<p>○全国的な問題として、教員不足によりベテラン教員による指導技術の伝承が直近の課題だということを理解した上で、教師主導の指導（ティーチング）から児童生徒主導の（ラーニング）への基調転換が必要である。ICT,プログラミング教育,英語科など外国語教育, STEMなどの新たな内容や主体的・対話的で深い学び, 教科横断的な学習などの方法について, そのこと自体が目的化されてしまっている感が否めず、現場でうまく消化できていないようを感じる。新教育課程の内実を踏まえた事業の質的担保が重要と考える。生徒が学ぶ意義を感じる文脈的な学習課題が単元レベルで設定された授業運営を期待する。</p> <p>○「みやわかアフタースクール」と令和4年度からスタートされた「MUSUBUスクールみやわか」等、宮若市は年度毎に実施方法を変更しながら継続的に先進的な取り組みを行っており非常に評価できる。取り組み成果等を市全体に啓発しながら取り組み、継続を期待する。</p> <p>○コロナ禍以降子どもの体力低下に拍車がかかっているが、運動・食事・休養・睡眠の4つの軸をしっかりとしながら体力向上に取り組んでいただきたい。また、水泳指導においては、生命にかかる大切な学習と捉え、工夫しながら実施されており、着衣水泳の指導等においてもしっかりと取り組みがなされていた。</p> <p>○不登校児童の解消及び予防を図るための取り組みとして、不登校対策委員会、教育支援センター、教育相談室の取り組み等充実している。</p> <p>○特別支援教育の推進については、就学前の取り組みや特別支援教育支援員の配置等により支援体制を整えている。今後の更なる教育活動の推進に向けて、協議会等の活性化を期待する。</p> <p>○一人1台タブレットが整備されたが、研修会やICT支援員のサポート等により日常的な活用が広がっており、先進的に取り組まれていると評価する。長期休暇中の持ち帰り等、活用方法の個別改善は必要であるため、今後いっそう環境を整備し定期的に活用方法の見直しをしていただきたい。また、デジタル教科書は教師用を導入しているが、生徒用についてはメリットとデメリットを確認したうえで学力格差が生じないように検討していただきたい。</p>

	<p>○中学校の部活動の地域移行について現在協議が進められているところではあるが、子どもや指導者に対するハラスメント対策として、人権擁護委員とのタイアップを図る等といった取り組みが有効である。是非検討いただきたい。</p> <p>○生涯学習センターでは、「本旅」や「図書館便」「学習支援ブックパック」等、読書活動に関わる様々な事業が行われ、積極的な読書活動の支援を推進している。そういった取り組み等により図書館の利用者登録者数目標値を大きくクリアしており素晴らしい。また、令和4年度から「調べる学習コンクール」が市内の小中学生を対象に実施されているが、子供自らが校区の歴史や文化財を探訪する学習として価値ある取り組みだと思う。この取り組みを通じて子どもたちは自ら課題を見つける。そればかりか、学校教育と社会教育の橋渡しができる素晴らしい事業であるため、今後も子どもだけでなく地域・大人を巻き込みながら継続していただきたい。</p> <p>○「宮若トレッジ」が開館し1年間で約5000人の来館者があったとのことで、今後の活用が期待される。企画展や常設展示の定期的な入れ替え等により、館へのリピーターを増やしていくことが大切である。</p>
取組 ・事業 の状況	<p>○社会の急激な変化により学校が抱える問題も複雑化し、国をあげた学校の働き方改革が喫緊の課題である。帳簿のデジタル化、メールによる欠席連絡、電話応対時間の設定等、環境整備が整っていることが評価できる。一方で教師自身が働き甲斐を実感できるような働きかけも必要である。</p>

令和 4 年度 教育委員会点検及び評価表 (宮若市教育委員会)

教育委員会の開催状況

定例教育委員会	開催回数 : <u>1 2 回</u> 議決事項 : <u>1 4 件</u> 【内訳】 条例・規則等 <u>7 件</u> 、予算案 <u> </u> 件 方針・計画等 <u>1 件</u> 、人事案件 <u> </u> 件 委員等の任命・委嘱 <u>6 件</u> 、 その他 <u> </u> 件 協議事項 : <u> 5 件</u> (人事案件等) 報告事項 : <u>1 0 件</u> (予算関係等) 【研修等委員会協議活動以外の内訳】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>内 容</th><th>実施回(日) 数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小中学校訪問</td><td>3</td></tr> <tr> <td>入園・卒園、入学・卒業、運動会、発表会、文化祭等</td><td>6</td></tr> <tr> <td>学校開放事業(E ウィーク)</td><td>0</td></tr> <tr> <td>学校経営説明会</td><td>6</td></tr> </tbody> </table>	内 容	実施回(日) 数	小中学校訪問	3	入園・卒園、入学・卒業、運動会、発表会、文化祭等	6	学校開放事業(E ウィーク)	0	学校経営説明会	6	(評価・課題等) 本市の教育委員の構成は、住職、学習塾経営、保護者代表、教育関係者であり、性別は男性 2 人、女性 2 人となっている。欠員がでることなく 4 名で実施した。 教育委員会会議については、毎月の定例会と必要に応じ臨時会を開催し、開催日時は毎回協議の上全員が出席できるよう可能な限り調整して開催した。 教育施策などの重要案件や規則改正、懸案事項等についてだけでなく、些細なことでも積極的に質問や意見交換を行った。
内 容	実施回(日) 数											
小中学校訪問	3											
入園・卒園、入学・卒業、運動会、発表会、文化祭等	6											
学校開放事業(E ウィーク)	0											
学校経営説明会	6											
臨時教育委員会	令和 5 年 3 月 第 1 回臨時教育委員会 開催理由 : ①教職員人事について 令和 5 年 3 月 第 2 回臨時教育委員会 開催理由 : ①議決議案 4 件 ②同意議案 1 件	(評価・課題等) 教職員の人事や、教育長不在となつたことに伴う職務代理者の事務対応に関する議案等について協議した。										

事業の区分

学校教育の充実

《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等
① 学力向上プロジェクトE事業の推進	(関連予算額 24,001千円) コロナウイルス感染症拡大防止のため、「みやわか教師塾」「みやわかアフター・スクール」については、当初予定回数を減らして実施した。令和4年度より「MUSUBU スクールみやわか」を開講した。市内で統一したスクール運営を計画的に実施することで、児童生徒の家庭学習に代わる時間の確保及び学習の定着と学習意欲の向上が見られた。 今後も内容充実と地域と協働した運営体制の整備が必要である。
② 教育相談体制の推進	(関連予算額 9,180千円) SSWを常勤配置、SCを2名体制とし、教育相談員や教育委員会、学校と連携しながら、迅速な相談支援を行う体制の充実を図った。その結果、支援が必要な児童生徒の状況にいち早く気付けるようになり早期対応に繋がった。今後更なる生徒児童や保護者への教育相談体制の充実が必要である。
③ 特別支援教育の推進	(関連予算額 25,203千円) コロナウイルス感染症防止対策のため、特別支援連携協議会及び担当者研修会は中止した。 特別な支援を必要とする児童生徒のスムーズな就学に向けた、保幼小中の連携と特別支援教育に係る教員の資質の向上に取り組む。
④ 国際理解教育の推進	(関連予算額 22,578千円) コロナウイルス感染症防止対策を講じて、少年の主張大会(英語部門)を実施した。 その結果、英語に対する児童生徒の興味関心を高めることに繋がった。働き方改革に取り組みつつ小学校教員の外国語教育指導力の向上に取り組む。
⑤ 情報教育の推進	(関連予算額 62,266千円) 児童生徒用タブレット端末のさらなる活用のため、セキュリティソフトや学習ソフトを導入し、GIGAスクールサポーターやICT支援員を活用して授業力向上のためのICT活用支援を行った。 今後、ICT機器を活用した授業力向上の取り組みや家庭学習における活用促進の検討を進めて参りたい。
⑥ 教育施設環境の整備	(関連予算額 403,000千円) ・宮田南小学校大規模改修工事 宮田南小学校の校舎及び体育館について、老朽化した施設の長寿命化及び学習環境の整備を目的とし、屋上防水や外壁の改修、床材の張替や照明のLED化等の改修を行った。 ・宮田北小学校プール改修工事 老朽化した宮田北小学校のプールについて、プール水槽のリニューアル工法により、工期と費用を抑えた改修を行った。

⑦ 安心・安全な学校給食と 食育の推進	<p style="text-align: right;">(関連予算額 2, 538千円)</p> <p>地産地消の取り組みとして、宮若産おいしいお米コンクールの金賞受賞米を月1回の給食に取り入れ、牛肉に関しても、年に1回高野地区の森下牧場の宮若牛を使用した給食を実施し、給食時間を通して児童生徒へ食育の推進を図った。</p>
------------------------	--

《 指 標 》 ※指標がないパターンもあり

指 標	指標の概要	現状値	目標値	達成状況
②教育相談体制の推進	SCによる相談の件数	914件	500件	
③特別支援教育の充実	実態に応じた支援員の配置	16名	15名	
④国際理解教育の推進	ALTの配置 少年の主張大会英語部門の応募人数	小 3名 中 2名 20 名	小 3名 中 2名 15 名	◎
⑤情報教育の推進	ICT支援員による研修	年4回	年3回	
⑦安心・安全な学校給食と 食育の推進	宮若米の使用目標量に対する宮若米の現状値	6, 930kg	6, 930kg	
	宮若牛の使用目標量に対する宮若牛の現状値 食材全体に占める地産食材目標 %	131kg 28. 6%	131kg 30%	○ △

※ 目標を完全に達成できた

◎

目標達成に向けて順調に推移。もしくは概ね目標を達成できた

○

目標達成には取組の強化が必要

△

目標を大きく下回り、抜本的な見直しが必要

×

事業の区分

生涯学習の推進

《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等
① 生涯学習センター事業 ・図書の購入 ・ブックスタート事業 ・学校図書館との連携事業 ・図書館ボランティアの活動支援 ・おはなし会の実施 ・図書館新聞の発行 ・レファレンスサービスの実施 ・企画展示 ・新刊案内の発行 ・本旅の実施 ・図書館便の実施 ・家読の推進 ・調べる学習コンクールの実施	(関連予算額 16,919千円) ・ふるさと納税寄付金のうち150万円を図書購入費として活用し、蔵書の充実に努めている。 ・子どもの読書活動の充実と定着に努めるため、保健センターパレットと連携し、健診の際に絵本や図書館の利用案内等一式をお渡しするブックスタート事業をはじめ、小学生読書リーダー養成講座、貸出文庫、学習支援ブックパック、POPの募集・展示などを新型コロナウイルス感染症対策を講じながら実施した。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策がとられて以降、交流が減少している学校図書館とのさらなる事業連携が課題である。 ・令和4年度より新たに実施した「調べる学習コンクール」では、多くの市内小中学生が宮若市立図書館や宮若トレッジ等、市の社会教育施設に実際に行き、自らで情報収集・分析を行い、108件の作品応募があった。
② 子育て支援・家庭教育事業	(関連予算額 770千円) 令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、子育てサロン(鞍手竜徳高校)を10回実施した。幼小中学校における家庭教育講座は新型コロナウイルス感染症防止対策のため実施していない。
③ 高齢者大学	(関連予算額 756千円) 高齢者の生きがいづくりのため、高齢者大学として、教養講座や笑顔の体操、カラダよかトレ、折り紙、スマホ・タブレット、男性楽しくストレッチ体操の講座を実施した。
④ 笠松研修センター事業	(関連予算額 9,581千円) 令和3年度から5年度にかけて、笠松研修センター改修事業を実施している。

《 指 標 》 ※指標がないパターンもあり

指 標	指標の概要	現状値	目標値	達成状況
① 生涯学習センター事業	図書館の利用登録数(累計) 図書の年間貸出し冊数	12, 222人 131, 670冊	10, 000人 183, 000冊	○

※ 目標を完全に達成できた

◎

目標達成に向けて順調に推移。もしくは概ね目標を達成できた

○

目標達成には取組の強化が必要

△

目標を大きく下回り、抜本的な見直しが必要

×

事業の区分

生涯スポーツの推進

《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等
⑧ スポーツフェスタ等各種 スポーツ大会・教室の開催	(関連予算額 850千円) スポーツフェスタについては、教育委員会・スポーツ推進委員会・体育協会・総合型スポーツクラブのそれぞれが実施主体となり分散型で10種目を実施した。3種目については、新型コロナウイルス感染症や台風等の影響により中止した。 スポーツ教室については、陸上教室、スナッグゴルフ教室を実施した。水泳教室について、プール閉館に伴い中止した。
⑨ 総合型スポーツクラブの育成	(関連予算額 0千円) 令和4年度会員数141名、9事業を実施し、延べ2, 251名の参加をえており、市民のスポーツ活動の一環として根付いている。新型コロナウイルス感染症の影響により、参加者数が目標値を下回っており、コロナ禍明けの事業展開が重要となる。
⑩ 体育協会の育成(補助金)	(関連予算額 1, 840千円) 体育協会は、市民の自発的なスポーツ活動の振興及び普及を図り、スポーツを通して市民の健康で活力のある豊かな生活の創造に資することを目的に活動を行っている。自主運営組織としての更なる強化が課題となる。
⑪ スポーツ少年団の育成 (補助金)	(関連予算額 900千円) スポーツ少年団は、青少年の健全な心身の育成を図ることを目的に活動を行っている。団員増加に向けた取り組みが課題となる。

《 指 標 》 ※指標がないパターンもあり

指 標	指標の概要	現状値	目標値	達成状況
① スポーツフェスタ等各種 スポーツ大会・ 教室の開催	スポーツフェスタの参加者数 (年間)	1, 578 人	1, 700 人	△
② 総合型スポーツクラブの育成	宮若いきいきスポーツクラブ 参加者数 (年間)	2, 251 人	4, 100 人	△

事業の区分

青少年の健全育成

《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等
① 青少年健全育成事業 ・はたちのつどい ・サマーチャレンジ、スプリングチャレンジ ・七夕席上揮毫会 ・リコリス子どもまつり ・少年の主張大会 ・学校週5日制事業「わいわいサークル」	(関連予算額 2,702千円) ・感染症対策を講じながら、各事業を実施した。 ・これまでの「成人式」から名称を「はたちのつどい」に変更し、実施した。 ・異学年交流を目的とした体験学習である「サマーチャレンジ」「スプリングチャレンジ」の応募者が定員を大きく上回っていることから、なるべく多くの応募者を受け入れる体制づくりを検討する必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う事業中止以降、「わいわいサークル」参加者が減少傾向にあり、実施内容の検討が必要である。
② 環境浄化の推進 ・有害図書等に関する環境浄化活動 ・街頭指導	(関連予算額 10千円) ・関係機関等と連携し、有害図書類に関する立入調査を実施した。 ・令和4年度は、花火大会等が実施されていないため、街頭指導は実施していない。

《指標》※指標がないパターンもあり

指標	指標の概要	現状値	目標値	達成状況
① 青少年健全育成事業	青少年育成活動の年間参加者数	1,114人	1,800人	○

※ 目標を完全に達成できた

◎

目標達成に向けて順調に推移。もしくは概ね目標を達成できた

○

目標達成には取組の強化が必要

△

目標を大きく下回り、抜本的な見直しが必要

×

事業の区分

芸術文化活動の充実

《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等
① 芸術文化各事業の実施 •文化連盟への助成 •リコリスエントラスコンサート •地域住民のためのコンサート •歴史・文化財保護ボランティア養成講座 •宮若市文化祭	(関連予算額 2,111千円) •感染症対策を講じながら、各事業を実施した。 •市民及び市内文化団体の日頃の芸術、文化活動の成果の発表の場として、宮若市文化祭を開催し、令和4年度は3年ぶりにステージの部を実施した •NHK交響楽団メンバーと日本のトップアーティストによる「音楽世界一周の旅」と題した地域住民のためのコンサートを開催し、芸術文化鑑賞機会の充実に努めた。

《指標》※指標がないパターンもあり

指標	指標の概要	現状値	目標値	達成状況
① 芸術文化各事業の実施	芸術文化イベントへ年間参加者数(古代フェス、文化振興シンポジウム含む)	3,137人	2,200人	◎

※ 目標を完全に達成できた

◎

目標達成に向けて順調に推移。もしくは概ね目標を達成できた

○

目標達成には取組の強化が必要

△

目標を大きく下回り、抜本的な見直しが必要

×

事業の区分

文化財の保護・継承

《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等
① 市の歴史や文化の継承・普及 ・埋蔵文化財報告書の作成 ・文化連盟と共に歴史探訪の開催 ・竹原古墳の公開 ・出前歴史講座の開催 ・文化財保護ボランティア講座の開催 ・宮若トレッジでの企画展 ・古代フェス ・文化振興シンポジウムの開催	(関連予算額 1,802千円) ・若宮地区で発掘調査した「屋敷田遺跡」及び「古屋敷遺跡」の調査報告書を作成した。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年実施されている竹原古墳の無料公開は中止し、通常の観覧については、人数制限を設けて公開を実施した。 ・宮若市文化財収蔵・展示・交流センター「宮若トレッジ」を令和4年4月に開館した。 ・来館者数 宮若トレッジ:4,788人、竹原古墳:2,044人、石炭記念館:1,676人 ・「古代フェス」に550人に参加があった。 ・文化振興シンポジウムを5年ぶりに開催した(隔年実施)
② 石炭文化の継承 ・石炭イベントの実施 ・貝島百合野山荘の今後の活用等についての調査研究	(関連予算額 296千円) ・リコリス子どもまつりとあわせ、石炭イベントを開催した。

《指標》※指標がないパターンもあり

指標	指標の概要	現状値	目標値	達成状況
③ 市の歴史や文化の継承・普及	竹原古墳年間観覧者数 石炭記念館年間来館者数	2,044人 1,676人	1,500人 1,600人	◎

※ 目標を完全に達成できた

◎

目標達成に向けて順調に推移。もしくは概ね目標を達成できた

○

目標達成には取組の強化が必要

△

目標を大きく下回り、抜本的な見直しが必要

×

事業の区分

人権尊重社会の構築

《事業の内容及び状況》

取組・事業名	実施状況・成果及び課題等
<ul style="list-style-type: none"> ○人権教育・啓発事業 <ul style="list-style-type: none"> ・街頭啓発 ・講演会 ・行政職員・教職員研修 ・地域懇談会 ・人権子ども会 ○人権啓発冊子及びカレンダーの作成 <ul style="list-style-type: none"> ・人権ポスターの募集 ○関係機関と連携した教育啓発事業 <ul style="list-style-type: none"> ・課題別研修会 ・講演会、学習会等 	<p>(関連予算額 3,425千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、同和問題啓発強調月間の街頭啓発は中止したものの、各種事業においては規模を縮小して実施した。 ・同和問題啓発強調月間人権講演会を開催、138名の参加があった。 ・人権問題地域懇談会を3年ぶりに開催し、宮田地区と若宮地区の2会場で249名の参加があった。 ・市内小中学生を対象に人権ポスターを募集、優秀作品を掲載した人権カレンダーを作成し、人権啓発冊子とともに市内全戸配布した。

《指標》※指標がないパターンもあり

指標	指標の概要	現状値	目標値	達成状況

※ 目標を完全に達成できた

◎

目標達成に向けて順調に推移。もしくは概ね目標を達成できた

○

目標達成には取組の強化が必要

△

目標を大きく下回り、抜本的な見直しが必要

×